

近畿支部 新春講演会開催

— 2月27日 —



挨拶する魚住直之会長

近畿支部は、大阪府食品卸同業会と共催で2月27日(火)大阪府都島区の太閤園で恒例の「新春講演会」を開催した。会員・賛助会員170名が参加した。

当日は小林正典氏(伊藤忠食品(株))の司会進行で始まり、最初に大阪府食品卸同業会の魚住直之会長(伊藤忠食品(株))が開会の挨拶を行い「本日の講演会では、谷田氏の経験・知見が語られると思うが、会員各位のこれからの活動に役に立つと思う」と述べた。ついで講演に入り、今回は((株)タニタ)前代表取締役谷田大輔氏を招き、「変革の瞬間～赤字会社を世界No. 1に～」と題して講演した。谷田氏は「経営を引き継いだ当時のタニタは3期連続の赤字、ヘルスメーターは1%のシェア状態であった。このため①事業部制を採用して事業単位の収支を明確化②外部部品調達のアッセンブリー企業から部品を内製化し一貫生産体制へ変更し、生産効率向上と利益の取り込みを図った。体重計の三方向として、①生涯体重(乳幼児から高齢者まで)②家庭用から業務用まで③体重は、「食べる+運動する」の結果と定め、計量機器の品揃え強化とメカ式体重計からデジタル体重計へ切替た。コンセプトが企業を変えた事例として「体重計ビジネス」から「体重ビジネス」へ発展、具体的には「肥満は脂肪」との認識から、脂肪の知識を体重計につけることを考案。さらにコンセプトの変革として、体重ビジネスから健康ビジネスへ発展させ、オンリーワンの商品を開発してきた」と語り、赤字企業を世界No.1企業に導いた経営手法、経営マインドを実体験に基づき講話された。

終了後懇親会を行い、遠藤毅ポッカサッポロフード&ビバレッジ執行役員近畿支社長が「日本の文化に貢献、新しい価値を提供するのがメーカーの役割」と挨拶し乾杯の発声を行った。



講演する谷田大輔氏